

波 紋

10

「夢と希望をもって 新たな目標を目指そう」

「第三〇期を迎えて」

森 信之

第三〇期売上目標

十二億一千百拾万円

森松株式会社は設立三〇年目を迎えました。取引先様、社員の皆様のおかげをもちまして、順調な歩みが続けさせて頂いております。誠に感謝申しあげ次第であります。

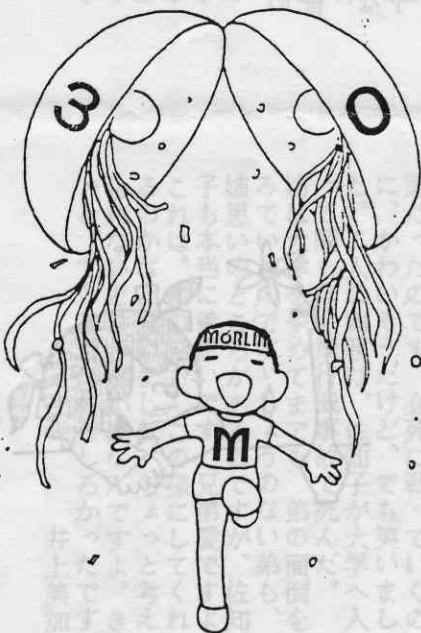
設立当時（昭和三十二年）と比べまして、取扱商品も大幅に変わり、業界の環境も大変厳しくなっております。原油価格の暴落、円高等により、販売価格の維持が厳しい状況の中で、従来と同じ販売量では、売上額が落ち、経費分が残らないという大変な時代になったものです。森松マンは、早朝より夜遅くまで頑張る、家庭を犠牲にしているところがあります。

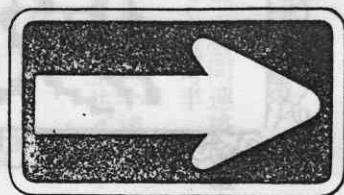
現状では仕方がない点もありますが、一日も早く家族と共に食事が出来、子供達と一緒に遊ぶ時間をもてる職場環境にしなければいけないと思っております。日頃社員の皆さんに、厳しいことを言っていますが、当り前のことを、当り前に出来るように、一つ一つ実行出来る事から取り組み、小さな積み重ねが、大きな夢の実現となる。この信念をもって、行動したいと思っております。全社員が一丸となり、「森松マン精神」「社員の基本姿勢」を守り、目標を目指し個々の役割を果しましょう。

十月一日より販売の組織変更を下記の通りとします。

- 営業一課◎光田昭男・孫田邦彦・吉岡孝記
富田美千代（アシスタント）
- 営業二課◎山口隆弘・安井浩二
橋本正子（アシスタント）
- 営業三課◎牧野光昌・岩間正美

（六一年四月一日より）
営業部は、森松株式会社、森松産業株式会社を牽引していく原動力です。木村部長を中心に、明るく、目標達成の為、頑張ってください。





本はよく読む。いわゆる雑学であるがここ四五年は猛烈に読み出した。だから本箱は満杯である。従って最近は何となく差し上げるか、会社へ持って行くかしている。一番効率の良い読み方は何といても新幹線の往復の四時間、これはとても楽しい。最近さぼってあまり読んでいないが、睡眠時間を減らすより仕方ない。本をよく読む様に社員の人は言っているが、勤務時間がますます長くなっていくので最近はやわいな様にしていく。でも若いうちは吸収が良いから出来るだけ時間を作って読むといい。継続しなければ意味がない。じゃあ僕が身になっていくか、という残念ながらそうではない。しかし大いに参考にはなっている。何事も継続である。皆さんには是非すすめたい。仕事もし、本も読み、スポーツもやり、家庭を愛し、色々な方とお付き合いをする。大変だけど二十代三十代はそれができる。四十代、五十代でももちろん出来るが、二十代が一番吸収力がある。その時に無駄に過ごすかそうでないかで、えらい違いだ。H・K

▽暮らしのエッセイ▽

しゃしゃり一采雷

ことの外、残暑の厳しかった今年の夏も、ようやく終りを告げ、秋の気配を其処此処に感じるこの頃になった。プロ野球の方ではいよいよ終盤戦となり、ペナントの行方はせもバも全く予断を許さない状態である。若い時から巨人ファンの方は、今年こそ是非巨人に優勝して欲しいと、この夏の試合に一喜一憂している。それにしても、ここ数年来の巨人は、「ここ一番」の試合に弱いのである。大一番での弱さ、これは何だろう、言うまでもなくプレッシャーに弱いのである。江川しかり、原而り「ここ一番」の試合に打たれるエース、チャンスに打てない四番バッター。何をか言わんや、これでは優勝出来る訳がないと、ヤケ気味につぶやいている。だが振り返って自分はどうなんだと、今迄の人生の歩みを見つめてみると「プレッシャーに対抗出来たか」「ここ一番で善処出来たか」と問われると、言葉のない自分に気が付くのである。要するに人のことはよく見え、解るのである。テレビ画面の選手に向かってケチをつけるだけでなく、おそまきかも知れないが、これからの人生如何したら「プレッシャーにまけない」「ここ一番」での勝負強さはどこから生まれるか、を考えてみたい。M・M

涙返社社挨拶



森松欄に入社して二年半、皆様には大変お世話になりました。どうも有難う御座いました。入社当時、若い女性は私一人で右見ても左見ても大人の人ばかりで、戸惑ってしまいました。慰安旅行の楽しい思い出、テニスやスキーをした事は、青春の頁に深く刻み込まれた気がします。楽しい思い出とは逆に、私が起こした数々の失敗で得意先様・仕入先様・社内の皆様に御迷惑をおかけした事は深くお詫び致します。申し訳ありませんでした。この会社に入社して学んだ事は、これからの人生の長い道程りの中で大きくプラスになる事だと思います。私の好きな言葉の一つで「一時は金なり」フランクリンの言葉にある様にこれからは時間を大切にしていきたいと思っております。本当に今まで有難う御座いました。皆様の御健康、御活躍を願っております。私も「頑張ります」

井上美加

秋の夜長、読書に最適の季節になってきました。今月より皆さんから寄せられた読書感想文を御紹介していきます。どうぞお楽しみに！

二十代に男は 何をすべきか

(鈴木健二著)

二十代に入り三年が過ぎた訳だが、振り返れば、一年一年多少は進歩していると思うが、ただ何気なく過ぎていった感じがする。二十代とは、人間の基本を身につけるための最後の準備期間。この時に身についた性格は、一生の性格となり、人生の人間の基本的な価値がきまる。二十代をどう過ごすかにより、人生の価値は決定されると言っても過言ではないと思った。二十代 今、この時の大切さがよくわかった。この先、十分心得て目標 計画を持ち、過ごしていきたいと思う。

安井浩二



「顔のない十字加木」

を讀んで
(作者 赤川次郎)

この本を読んで、まず感じた事は、「おもしろい」の一言。ページをめくる度に「早く次へ」という感じにさせられます。なんだかこの中に入って、自分が主人公になり、まるで魔法にかかれたみたいになってしまいました。内容は、一人のOLが誘拐にまきこまれるサスペンスミステリーです。

OL宮川佐知子の弟秀一から、深夜のドライブで人をひき殺してしまつたと知らされどしたらいいだろうと、相談を受けるのだが、ひかれた若い男のコートのポケットから出てきたのは、K物産課長真山一郎の一枚の名刺と一通の脅迫状。

脅迫状には、「お前の娘は預かつた三日以内に五千万円を用意しろ、一週間は命を保証するが、次の月曜日には確実にかつ自動的に娘の命はない」という文面です。それを見た佐知子と秀一は驚きます。私からいわせてもらおうと秀一は気の弱いバカみたいな男です。佐知子は弟に代わって男の死体を始末し、真山一郎という人物の正体をつきとめ誘拐された娘を探し出そうと思ひ行動にはいるのです。

佐知子の性格は、冷静で気丈な姉である。私だったら、さっさと警察に届け罪を受けなさいと言うだけで、こんなしょうもない弟の為にやれないとおもいます。本当なら平凡な銀行員で婚約者もあり、平凡な女性で暮らしていたはずなのに・・・とおもいます。



本当に次から次へと危険な事に出会うでも二人は必死に娘の行くえをつきとめようとします。でも結果的には、二人の大きな勘違いだったので。笑いました。大声で、私は・・・。だって、娘というのは人間でなく、廃棄だったので。必死に戦っていくのに、かわいそうだけど、でも笑いました。二人の両親は、佐知子が大学へ入って間もなく飛行機事故で死んだ。姉は大学をやめてまでも、弟の面倒をみていたのです。しょうもない弟も、姉思いのところがあるのですが、佐知子も本当に弟思いです。兄弟愛ですよ。これは。私の兄も、この様にしてくれられないと思いました。ちょっと考えたら、でも本当におもしろかったです。

井上美加

△7月の社内行事

- 三日 英会話教室
午後七時〜八時半
- 四日 営業・事務・合同連絡会議
午前八時〜八時半
- 五日 野球 対戦相手【小浅】
午前十時より宝生グラウンドにて
- 十一日 第二土曜日休業
- 十七日 英会話教室
定時より
- 十九日 野球
対戦相手【東海オフィスメイション】
午後一時より呼続公園にて
- 二十四日 英会話教室
定時より
- 二十六日 組合親善ソフトボール大会
中日本高周波ビニール組合主催
午前八時より、庄内グラウンドにて

お知らせ

十一月二日(日)
森松株式会社 30周年記念
家族パーティーを行います。
関係者の方は宜しく願います。

☆行って見たいお店☆

レスト・デ
ムスタッシュ

場所は新栄二丁目。

営業時間は朝まで。一番店が込む時間は夜中の二〜三時頃、従業員は全員男性。ホストクラブではありません。お客は男性六割、女性四割。この店の名物は「たこやき」と「あわてちゃいけない踊り」たこやきは、食べるたこやきではありません。この紙面では説明出来ない「たこやき」です。踊りの方はCMソングの「あわてちゃいけない、でもおんびりとしてられない・・・。」という音楽にあわせて従業員からお客まで全員が一人ずつ交代でステージの上で踊ります。とにかく、しらふでは気が狂う様な店です。 M. M.



おの誕生生日紹介

十月生まれの人

- 社内
- 竹内治子 昭和二十年十月二三日
 - 永井しるあ 昭和三十九年十月二三日
 - 梶田祐子 昭和四十年十月二四日
 - 光田千穂 昭和五十年十月三日
 - 木村武宏 昭和四十八年十月六日
 - 時見海 昭和五十九年十月九日
 - 木村浩之 昭和五十一年十月十六日

※クイズコーナー※

9月号の答：16個でした

編輯佳未後記

朝夕少し冷え込みますが、ようやく過ぎしやすい季節になりました。夏の間、美しかった木々の色もあせて、どんどん秋が深まっています。九月末で井上さんが家庭の事情で退社されました。私は入社して四ヶ月ほどになりますが、仕事を教えて頂きました、ミスをした時、助けて頂きました。事務所の中も少し寂しくなります。どうかお元気で、森松を忘れないで、また遊びに来て頂きたいと思っています。それから森松は、9月末で第二九期決算を無事終える事から第三十期を迎える事ができました。これも得意先、仕入先の皆様のおかげです。今後共宜しくお願い致します。 梶田祐子

編集発行者

森松株式会社

発行責任者

橋本正子

昭和61年10月1日

第16号